

## 1.1 緊急停止失敗時に発電用原子炉を未臨界にするための手順等

No.	玄海3 / 4号	東二	東二資料の有無	採用可否	要否理由・記載方針
1	重大事故等対処設備の電源構成図	対応手段として選定した設備の電源構成図	有	—	—
2	重大事故等対処設備と基準規則の対応表	審査基準、基準規則と対処設備との対応表	有	—	—
3	原子炉トリップ設定リスト	原子炉スクラム信号一覧表	有	—	—
4	電動発電機モータ遮断器現場開放	—	無	×	成立性。設備の相違。本文中に原子炉保護系電源の遮断について（現場ではなく）中央制御室実施を記載。
5	電動発電機出力遮断器現場開放	—	無	×	成立性。設備の相違。本文中に原子炉保護系電源の遮断について（現場ではなく）中央制御室実施を記載。
6	原子炉トリップ遮断器現場開放	—	無	×	成立性。設備の相違。本文中に原子炉保護系電源の遮断について（現場ではなく）中央制御室実施を記載。
7	主給水流量喪失時に原子炉トリップに失敗した場合の対応について	—	無	×	設備の相違。玄海では「主給水流量喪失」時の対応を記載。東二（BWR）の一連の対応操作を事象の徴候で対応し、基準要求である「未臨界」移行まで対応手段に記載。
8	手順のリンク先について	—	無	○	資料追加作成「手順のリンク先について」
9	技術的能力における設備名称の括弧書きの記載方針について	—	無	○	設備名称の括弧書きの記載方針を示す。
10	—	重大事故対策の成立性 非常時運転手順書Ⅱ（徴候ベース）原子炉制御「反応度制御」 ・スクラム・パイロット弁計器用空気系排気 ・スクラム個別スイッチによる制御棒挿入 ・制御棒駆動水圧系引抜配管ベント弁による排水	有	—	設備の相違。現場での制御棒挿入操作を記載。
11	—	原子炉出カースプレッション・プール水温度相関曲線	有	—	設備の相違。
12	—	代替制御棒挿入機能 概要図	有	—	設備の相違。
13	—	代替原子炉再循環ポンプトリップ機能 概要図	有	—	設備の相違。
14	—	中性子束振動が発生した場合の対応について	有	—	設備の相違。
15	—	サプレッション・プール水温度における設定根拠の考え方について	有	—	設備の相違。

技術的能力 添付資料の比較

1.2 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等

No.	玄海 3 / 4 号	東二	東二資料の有無	採用要否	要否理由・記載方針
1	重大事故等対処設備の電源構成図	対応手段として選定した設備の電源構成図	有	—	—
2	重大事故等対処設備と基準規則の対応表	審査基準, 基準規則と対処設備との対応表	有	—	—
3	多様性拡張設備仕様	—	無	○	資料追加作成「自主対策設備仕様」
4	安全注入の停止条件について	—	無	×	BWR には ECCS 系ホ <sup>®</sup> ソフ <sup>®</sup> 停止条件はなく、ECCS 系運転継続のまま、原子炉水位を L3~L8 に維持する。
5	フィードアンドブリードへの移行判断時における蒸気発生器の広域水位計の指示について	—	無	○	資料追加作成「原子炉水位計 燃料域の指示について」
6	可搬型ディーゼル注入ポンプによる蒸気発生器への注水について	—	無	×	成立性。設備の相違。
7	手動によるタービン動補助給水ポンプの機能回復	重大事故対策の成立性 現場手動操作による高圧代替注水系起動 ・高圧代替注水系現場起動	有	—	条文要求「現場操作」の成立性。
8	可搬型バッテリーによるタービン動補助給水ポンプの機能回復	—	無	×	条文要求「可搬型重大事故防止設備」の成立性。東二は、本文中に常設代替直流電源設備による高圧代替注水系起動記載。
9	現場手動操作による主蒸気逃がし弁の機能回復	—	無	×	成立性。設備の相違。
1 0	タービン動補助給水ポンプ出口流量設定弁開度調整	—	無	×	成立性。設備の相違。
1 1	窒素ポンプによる主蒸気逃がし弁の機能回復	—	無	×	成立性。設備の相違。
1 2	全交流動力電源喪失時に補助給水系の起動に失敗した場合の処置について	—	無	○	資料追加作成「全交流動力電源喪失時に高圧代替注水系の起動に失敗した場合の処置について」
1 3	蒸気発生器 2 次側による炉心冷却（蒸気放出）について	—	無	×	設備の相違。
1 4	手順のリンク先について	—	無	○	資料追加作成「手順のリンク先について」
1 5	—	重大事故対策の成立性 ほう酸水注入系による原子炉注水 ・ほう酸水注入系による原子炉注水（現場操作）	有	—	—

技術的能力 添付資料の比較

1.3 原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための手順等

No.	玄海3 / 4号	東二	東二資料の有無	採用可否	要否理由・記載方針
1	重大事故等対処設備の電源構成図	対応手段として選定した設備の電源構成図	有	—	—
2	重大事故等対処設備と基準規則の対応表	審査基準、基準規則と対処設備との対応表	有	—	—
3	多様性拡張設備仕様	—	無	○	資料追加作成「自主対策設備仕様」
4	1次冷却材喪失事故時の蒸気発生器細管漏えい監視について	—	無	×	設備の相違。
5	窒素ポンペによる加圧器逃がし弁の機能回復	重大事故対策の成立性 高圧窒素ガス供給系（非常用）による窒素確保 可搬型窒素供給装置（小型）による窒素確保	有	—	成立性。
6	可搬型バッテリーによる加圧器逃がし弁の機能回復	—	無	×	成立性。本文中に「逃がし安全弁用可型蓄電池による逃がし安全弁機能回復」を記載。
7	炉心損傷後の1次系減圧操作について	—	無	○	資料追加作成「炉心損傷前の原子炉の減圧操作について」
8	蒸気発生器伝熱管破損時の概略図	—	無	×	設備の相違。
9	破損蒸気発生器隔離操作	—	無	×	成立性。現場手動弁操作による1次系減圧操作はBWRにはない。
10	CVCS漏えい発生時の運転員の処置の流れについて	—	無	×	設備の相違。 玄海3/4号CVCS漏えい時処置の流れを記載。東2では類似系統CUWでの漏えいについては原子炉バウンダリ隔離機能により漏えいを防止できる。
11	インターフェイスシステムLOCA時の概略図	インターフェイスシステムLOCA時の概要図	有	—	—
12	余熱除去系統の分離、隔離操作	重大事故対策の成立性 インターフェイスシステムLOCA発生時の漏えい停止操作（残留熱除去系の場合）	有	—	成立性。
13	インターフェイスシステムLOCA発生時の余熱除去系統隔離操作の成立性について	重大事故対策の成立性 インターフェイスシステムLOCA発生時の漏えい停止操作（残留熱除去系の場合） インターフェイスシステムLOCA発生時の破断面積及び現場環境等について	有	—	玄海3/4号では、主にコンドラによる隔離操作及び環境条件等を考慮した成立性について記載。東2では隔離の成立性にはコンドラは使用しない。また、環境条件等については「添付資料：インターフェイスシステムLOCA発生時の破断面積及び現場環境等について」で記載。
14	インターフェイスシステムLOCA時の漏えい確認方法	インターフェイスシステムLOCA発生時の検知手段について	有	—	—
15	手順のリンク先について	—	無	○	資料追加作成「手順のリンク先について」
16	—	重大事故対策の成立性 代替逃がし安全弁駆動装置による原子炉減圧	有	—	—

技術的能力 添付資料の比較

1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等 (1/2)

No.	玄海 3 / 4 号	東二	東二資料の有無	採用要否	要否理由・記載方針
1	重大事故等対処設備の電源構成図	対応手段として選定した設備の電源構成図	有	—	—
2	重大事故等対処設備と基準規則の対応表	審査基準, 基準規則と対処設備との対応表	有	—	—
3	多様性拡張設備仕様	—	無	○	資料追加作成「自主対策設備仕様」
4	B格納容器スプレイポンプ (RHR S-CS S タイライン使用) による代替炉心注入	—	無	×	成立性。設備の相違。
5	常設電動注入ポンプによる代替炉心注入	—	無	×	成立性。設備の相違。
6	電動消火ポンプ、ディーゼル消火ポンプ又は消防自動車による代替炉心注入	重大事故対策の成立性 消火系による原子炉注水	有	—	成立性。
7	可搬型ディーゼル注入ポンプによる代替炉心注入	重大事故対策の成立性 低圧代替注水系 (可搬型) による原子炉注水 (淡水 / 海水)	有	—	成立性。
8	B格納容器スプレイポンプ (RHR S-CS S タイライン使用) による代替再循環	—	無	×	成立性。設備の相違。
9	LOCA 時における炉心及び原子炉格納容器内の冷却手段について	—	無	×	成立性。設備の相違。
10	AM 用代替再循環ポンプによる代替再循環	—	無	×	成立性。設備の相違。
11	AM 用代替再循環ポンプの設備概要について	—	無	×	東二の代替循環冷却系による炉心注水を自主対策設備であり、本文中に理由を記載。原子炉格納容器の過圧破損を防止ための設備【50条】にて記載しているため、本資料への反映は不要。
12	AM 用代替再循環ポンプを使用した炉心注入について	—	無	×	
13	格納容器再循環サンプスクリーン閉塞時の対応手順について	—	無	○	資料追加作成「代替循環冷却系システムフラッシング操作及び吸込ストレーナ逆洗操作について」
14	再循環運転への切替操作概要	—	無	×	設備の相違。
15	全交流動力電源喪失と LOCA 事象が重畳する場合の対応操作について	—	無	×	対応手順の相違。東二 (BWR) では事象によらず、原子炉水位、格納容器圧力等の徴候に応じた対応操作を実施する。
16	B 充てんポンプ (自己冷却) による代替炉心注入	—	無	×	設備の相違。

技術的能力 添付資料の比較

1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等 (2/2)

No.	玄海 3 / 4 号	東二	東二資料の有無	採用要否	要否理由・記載方針
1 7	B格納容器スプレイポンプ（自己冷却）（RHR S-CS S タイライン使用）による代替炉心注入	—	無	×	成立性。設備の相違。
1 8	炉心損傷時におけるC/V破損防止等操作について	—	無	○	資料追加作成「炉心損傷後における格納容器破損防止等操作について」
1 9	原子炉格納容器内冷却状況の原子炉格納容器外温度計での確認について	—	無	×	PWRでは格納容器外の可搬温度監視を記載。東二は格納容器外の温度監視可能。
2 0	炉心損傷時の再循環運転について	—	無	×	設備の相違。
2 1	蒸気発生器2次側のフィードアンドブリード	—	無	×	成立性。設備の相違。
2 2	運転停止中の除熱機能と炉心注入手段	—	無	○	資料追加作成「運転停止中の除熱機能と炉心注入手段」
2 3	ミッドループ運転概要図	—	無	×	設備の相違。
2 4	RCS への燃料取替用水タンク（ピット）重力注入について	—	無	×	設備の相違。
2 5	ミッドループ運転時に原子炉冷却材が燃料取替用水タンク（ピット）への流出した場合の対応について	—	無	×	設備の相違。
2 6	運転停止中の全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却機能喪失時の炉心注入手段	—	無	×	設備の相違。
2 7	燃料取替用水タンクからの重力注入による代替炉心注入	—	無	×	成立性。設備の相違。
2 8	ミッドループ運転中の事故時におけるC/V内作業員の退避について	—	無	○	資料追加作成「原子炉運転停止中LOCA事象時原子炉建屋6階からの作業員の退避について」
2 9	全交流動力電源が喪失した状態においてRCPシールLOCAが発生した場合の手順	—	無	×	BWR再循環ポンプメカシールからのLOCAは発生しない。LOCA考慮しない手順で対応可能。
3 0	1次冷却材ポンプシール戻り隔離弁閉止操作	—	無	×	成立性。設備の相違。
3 1	可搬型ディーゼル注入ポンプ又は移動式大容量ポンプ車への燃料補給	—	無	×	成立性。可搬型代替注入大型ポンプ等への燃料補給については、「1.14 電源確保に関する手順等」に記載。
3 2	手順のリンク先について	—	無	○	資料追加作成「手順のリンク先について」
3 3	—	重大事故対策の成立性 補給水系による原子炉注水 残留熱除去系（原子炉停止時冷却系）復旧後の原子炉除熱	有	—	—

技術的能力 添付資料の比較

1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等

No.	玄海3 / 4号	東二	東二資料の有無	採用要否	要否理由・記載方針
1	重大事故等対処設備の電源構成図	対応手段として選定した設備の電源構成図	有	—	—
2	重大事故等対処設備と基準規則の対応表	審査基準、基準規則と対処設備との対応表	有	—	—
3	多様性拡張設備仕様	—	無	○	資料追加作成「自主対策設備仕様」
4	移動式大容量ポンプ車による補機冷却海水通水	—	無	×	成立性。設備の相違。
5	空調用冷水ポンプによるA余熱除去ポンプの代替補機冷却水通水	—	無	×	成立性。設備の相違。
6	手順のリンク先について	—	無	○	資料追加作成「手順のリンク先について」
7	—	重大事故対策の成立性 格納容器圧力逃がし装置による格納容器内の減圧及び除熱 ・格納容器圧力逃がし装置の遠隔人力操作機構による現場操作による格納容器ベント ・フィルタ装置スクラビング水補給 ・格納容器内の不活性ガス（窒素）置換 ・フィルタ装置内の不活性ガス（窒素）置換 ・フィルタ装置スクラビング水移送 ・フィルタ装置スクラビング水移送ライン洗浄 代替残留熱除去系海水系による冷却水（海水）の確保 ・可搬型代替注水大型ポンプによる送水（海水）	有	—	「格納容器圧力逃がし装置」KK同様な添付資料有： 重大事故対策の成立性 ・格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱 ・PCVベント弁駆動限確保（予備ポンプ） ・フィルタ装置ドレン移送ポンプ水張り ・フィルタ装置水位調整（水張り） 等
8	格納容器再循環サンプスクリーン閉塞時の対応手順について	—	無	○	資料追加作成「代替循環冷却系システムフラッシング操作及び吸込ストレーナ逆洗操作について」

技術的能力 添付資料の比較

1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等

No.	玄海 3 / 4 号	東二	東二資料の有無	採用要否	要否理由・記載方針
1	重大事故等対処設備の電源構成図	対応手段として選定した設備の電源構成図	有	—	—
2	重大事故等対処設備と基準規則の対応表	審査基準, 基準規則と対処設備との対応表	有	—	—
3	多様性拡張設備仕様	—	無	○	資料追加作成「自主対策設備仕様」
4	常設電動注入ポンプによる代替格納容器スプレイ	—	無	×	成立性。設備の相違。
5	電動消火ポンプ、ディーゼル消火ポンプ又は消防自動車による代替格納容器スプレイ	重大事故対策の成立性 消火系による格納容器内の冷却。	有	—	成立性。
6	可搬型ディーゼル注入ポンプによる代替格納容器スプレイ	重大事故対策の成立性 代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）による格納容器内の冷却（淡水 / 海水）。	有	—	成立性。
7	B格納容器スプレイポンプ（自己冷却）による代替格納容器スプレイ	—	無	×	成立性。設備の相違。
8	代替格納容器スプレイによる薬品注入の考え方について	—	無	×	設備の相違。格納容器スプレイに薬品注入手段無。設備 49 条にて、格納容器スプレイによる格納容器内の放射性物質除去効果について記載。
9	炉心損傷時における C/V 破損防止等操作について	—	無	○	資料追加作成「炉心損傷後における格納容器破損防止等操作について」
10	復水タンク（ピット） / 燃料取替用水タンク（ピット）の接続ラインについて	—	無	×	設備の相違（ディスタンスピースについて）。
11	代替格納容器スプレイと代替炉心注入を同時に行う場合の対応設備の組み合わせについて	—	無	○	資料追加作成「代替格納容器スプレイと代替炉心注入を同時に行う場合の対応設備の組み合わせについて」
12	炉心及び原子炉格納容器内への注水時における原子炉格納容器内の水位及び注水量の管理	—	無	○	資料追加作成「炉心及び原子炉格納容器内への注水時におけるサブプレッシャーの水位及び注水量の管理」
13	LOCA 時における炉心及び原子炉格納容器内の冷却手段について	—	無	○	資料追加作成「LOCA 時における炉心及び原子炉格納容器内の冷却手段について」
14	手順のリンク先について	—	無	○	資料追加作成「手順のリンク先について」
15	—	重大事故対策の成立性 補給水系による格納容器内の冷却	有	—	—

技術的能力 添付資料の比較

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

No.	玄海3 / 4号	東二	東二資料の有無	採用要否	要否理由・記載方針
1	重大事故等対処設備の電源構成図	対応手段として選定した設備の電源構成図	有	—	—
2	重大事故等対処設備と基準規則の対応表	審査基準, 基準規則と対処設備との対応表	有	—	—
3	多様性拡張設備仕様	—	無	○	資料追加作成「自主対策設備仕様」
4	A, B格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却	—	無	×	成立性。設備の相違。
5	原子炉補機冷却水サージタンク加圧について	—	無	×	設備の相違。
6	移動式大容量ポンプ車を用いたA, B格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却	—	無	×	成立性。設備の相違。
7	炉心損傷後の外部環境(線量、温度、湿度)を考慮した作業の成立性	—	無	○	資料追加作成「炉心損傷後の外部環境(線量、温度、湿度)を考慮した作業の成立性」
8	原子炉格納容器内冷却状況の原子炉格納容器外温度計での確認について	—	無	×	PWRでは格納容器外の可搬温度監視を記載。東二は格納容器外の温度監視可能。
9	炉心損傷時におけるC/V破損防止等操作について	—	無	○	資料追加作成「炉心損傷後における格納容器破損防止等操作について」
10	手順のリンク先について	—	無	○	資料追加作成「手順のリンク先について」
11	フォールトツリー解析の実施の考え方について	—	無	○	資料追加作成「フォールトツリー解析の実施の考え方について」逐条によりフォールトツリー解析の有無考え方をまとめる。
12	—	重大事故対策の成立性 格納容器圧力逃がし装置による格納容器内の減圧及び除熱 ・格納容器圧力逃がし装置の遠隔人力操作機構による現場操作による格納容器ベント ・フィルタ装置スクラビング水補給 ・格納容器内の不活性ガス(窒素)置換 ・フィルタ装置内の不活性ガス(窒素)置換 ・フィルタ装置スクラビング水移送 ・フィルタ装置スクラビング水移送ライン洗浄	有	—	「格納容器圧力逃がし装置」KK同様な添付資料有: 重大事故対策の成立性 ・格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱 ・フィルタ装置トレン移送ポンプ水張り ・フィルタ装置水位調整(水張り・水抜き)等
13	—	重大事故対策の成立性 二次隔離弁操作室の正圧化	有	—	「二次隔離弁操作室の正圧化」
14	格納容器再循環サンプスクリーン閉塞時の対応手順について	—	無	○	資料追加作成「代替循環冷却系系統フラッシング操作及び吸込ストレーナ逆洗操作について」
15	—	—	無	○	資料追加作成「FCVSスクラビング水位の保有水量の設定根拠について」(仮件名)補給頻度について記載。

技術的能力 添付資料の比較

1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等

No.	玄海3 / 4号	東二	東二資料の有無	採用要否	要否理由・記載方針
1	重大事故等対処設備の電源構成図	対応手段として選定した設備の電源構成図	有	—	—
2	重大事故等対処設備と基準規則の対応表	審査基準, 基準規則と対処設備との対応表	有	—	—
3	多様性拡張設備仕様	—	無	○	資料追加作成「自主対策設備仕様」
4	炉心損傷時におけるC/V破損防止等操作について	—	無	○	資料追加作成「炉心損傷後における格納容器破損防止等操作について」
5	炉心及び原子炉格納容器内への注水時における原子炉格納容器内の水位及び注水量の管理	—	無	○	資料追加作成「炉心及び原子炉格納容器内への注水時における原子炉格納容器内の水位及び注水量の管理」
6	溶融炉心冷却における原子炉下部キャビティ注水停止操作について	—	無	○	資料追加作成「溶融炉心冷却における原子炉下部注水停止操作について」
7	常設電動注入ポンプによる代替格納容器スプレイ	—	無	×	成立性。設備の相違。
8	電動消火ポンプ、ディーゼル消火ポンプ又は消防自動車による代替格納容器スプレイ	—	無	×	成立性。設備の相違。
9	可搬型ディーゼル注入ポンプによる代替格納容器スプレイ	—	無	×	成立性。設備の相違。
10	格納容器スプレイ注水(原子炉下部キャビティ水張り)を優先する理由	—	無	○	資料追加作成「格納容器スプレイ注水(原子炉下部水張り)を優先する理由」
11	全交流動力電源喪失とLOCA事象が重畳する場合の対応操作について	—	無	×	対応手順の相違。東二(BWR)では事象によらず、原子炉水位、格納容器圧力等の徴候に応じた対応操作を実施する。
12	B格納容器スプレイポンプ(自己冷却)による代替格納容器スプレイ	—	無	×	成立性。設備の相違。
13	手順のリンク先について	—	無	○	資料追加作成「手順のリンク先について」
14	—	重大事故対策の成立性 格納容器下部注水系(可搬型)によるペDESTAL(ドライウエル部)への注水(淡水/海水) ・可搬型代替注水大型ポンプによる送水(淡水/海水)重大事故対策の成立性 ・消火系によるペDESTAL(ドライウエル部)への注水 ・補給水系によるペDESTAL(ドライウエル部)への注水 ・低圧代替注水系(可搬型)による原子炉圧力容器への注水(淡水/海水) ・消火系による原子炉圧力容器への注水 ・補給水系による原子炉圧力容器への注水	有	—	—

技術的能力 添付資料の比較

1.9 水素爆発による原子炉格納容器の破損を防止するための手順等

No.	玄海 3 / 4 号	東二	東二資料の有無	採用要否	要否理由・記載方針
1	重大事故等対処設備の電源構成図	対応手段として選定した設備の電源構成図	有	—	—
2	重大事故等対処設備と基準規則の対応表	審査基準, 基準規則と対処設備との対応表	有	—	—
3	多様性拡張設備仕様	—	無	○	資料追加作成「自主対策設備仕様」
4	全交流動力電源喪失時の電気式水素燃焼装置の起動条件及び静的触媒式水素再結合装置の作動状況の確認時期について	—	無	×	設備の相違。東二では電気式水素燃焼装置（イグナイタ）は使用しない。
5	電気式水素燃焼装置の設置個数及び設置場所について	—	無	×	設備の相違。東二では電気式水素燃焼装置（イグナイタ）は使用しない。
6	電気式水素燃焼装置動作監視装置の概要	—	無	×	設備の相違。東二では電気式水素燃焼装置（イグナイタ）は使用しない。
7	可搬型格納容器水素濃度計測装置による格納容器水素濃度監視（交流動力電源及び原子炉補機冷却機能が健全である場合）	—	無	×	成立性。設備の相違。東二では格納容器内水素濃度（SA）設置。
8	可搬型格納容器水素濃度計測装置による格納容器水素濃度監視（全交流動力電源及び原子炉補機冷却機能が喪失した場合）	—	無	×	成立性。設備の相違。東二では格納容器内水素濃度（SA）設置。
9	ガス分析計による格納容器水素濃度監視操作	—	無	×	成立性。設備の相違。東二では格納容器内水素濃度（SA）設置。
10	原子炉格納容器内の水素濃度監視について	—	無	×	設備「52条」資料記載。格納容器内水素・酸素濃度（SA）監視装置。
11	手順のリンク先について	—	無	○	資料追加作成「手順のリンク先について」
12	—	重大事故対策の成立性 格納容器内の不活性化による水素爆発防止 ・可搬型窒素供給装置による格納容器内の不活性化	有	—	—

技術的能力 添付資料の比較

1.10 水素爆発による原子炉建屋等の損傷を防止するための手順等

No.	玄海3 / 4号	東二	東二資料の有無	採用要否	要否理由・記載方針
1	重大事故等対処設備の電源構成図	対応手段として選定した設備の電源構成図	有	—	—
2	重大事故等対処設備と基準規則の対応表	審査基準, 基準規則と対処設備との対応表	有	—	—
3	多様性拡張設備仕様	—	無	○	資料追加作成「自主対策設備仕様」
4	代替空気(窒素)によるアンユラス空気浄化設備の運転操作	—	無	×	成立性。設備の相違。
5	原子炉格納容器内水素濃度測定値によるアンユラス水素濃度推定	—	無	×	設備の相違。
6	手順のリンク先について	—	無	○	資料追加作成「手順のリンク先について」
7	—	重大事故対策の成立性 格納容器頂部注水系(可搬型)による原子炉ウェルへの注水(淡水/海水) 原子炉建屋原子炉棟トップベント設備による水素の排出	有	—	—

技術的能力 添付資料の比較

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等 (1/2)

No.	玄海3 / 4号	東二	東二資料の有無	採用要否	要否理由・記載方針
1	重大事故等対処設備と基準規則の対応表	審査基準, 基準規則と対処設備との対応表	有	—	—
2	多様性拡張設備仕様	—	無	○	資料追加作成「自主対策設備仕様」
3	使用済燃料ピットの水位低下時間評価	—	無	○	資料追加作成「使用済燃料プールの水位低下時間評価」
4	燃料取替用水タンク(ピット)等から使用済燃料ピットへの注水	—	無	×	成立性。設備の相違。
5	消火ポンプによる使用済燃料ピットへの注水	重大事故対策の成立性 ・消火系(消火栓)による使用済燃料プール注水 ・消火系(残留熱除去系ライン)による使用済燃料プール注水	有	—	成立性。
6	消防自動車による使用済燃料ピットへの注水	—	無	×	成立性。設備の相違。
7	使用済燃料ピット補給用水中ポンプによる使用済燃料ピットへの注水	重大事故対策の成立性 可搬型代替注水大型ポンプによる代替燃料プール注水系(注水ライン)を使用した使用済燃料プール注水(淡水/海水) ・可搬型代替注水大型ポンプによる送水(淡水/海水)	有	—	成立性。
8	使用済燃料ピットへの補給方法について	—	無	×	東二では、水位・環境条件を考慮した対応手段選択フローに従い優先順位設定。
9	使用済燃料ピットへのスプレー手順の妥当性について	—	無	×	設備「54条:スプレー手順の妥当性」資料記載充実。
10	可搬型ディーゼル注入ポンプによる使用済燃料ピットへのスプレー	重大事故対策の成立性 ・可搬型代替注水大型ポンプによる代替燃料プール注水系(可搬型スプレーノズル)を使用した使用済燃料プールスプレー(淡水/海水)	有	—	成立性。
11	使用済燃料ピットからの漏えい抑制操作	重大事故対策の成立性 ・使用済燃料プール漏えい緩和	有	—	成立性。
12	重大事故等時の使用済燃料ピットの監視対応フロー	—	無	×	水位・環境条件を考慮した対応手段選択フローに従い優先順位設定し、水位監視については設備「54条補足説明資料:54-11使用済燃料プール監視設備」記載。
13	使用済燃料ピット監視設備(重大事故等対処設備)	—	無	×	設備「54条補足説明資料:54-11使用済燃料プール監視設備」記載。
14	重大事故等時の使用済燃料ピットの監視	—	無	×	成立性。設備「54条補足説明資料:54-11使用済燃料プール監視設備」記載。

技術的能力 添付資料の比較

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等 (2/2)

No.	玄海3 / 4号	東二	東二資料の有無	採用要否	要否理由・記載方針
15	ロープ式水位計について	—	無	×	設備の相違。
16	使用済燃料ピット監視装置用空気供給システム(発電機)への燃料補給	—	無	×	成立性。設備の相違。
17	手順のリンク先について	—	無	○	資料追加作成「手順のリンク先について」
18	—	対応手段として選定した設備の電源構成図	有	—	—
19	—	重大事故対策の成立性 ・補給水系による使用済燃料プール注水 ・可搬型代替注水大型ポンプによる冷却水(海水)の確保	有	—	—